

目次

自由*空間	「自らの心を楽しく豊かに生きる」 「一本の樹」	… P2
ご存じですか	「松葉ジュースの効能」	… P2
私のおすすめ	『ただめしを食べさせる食堂が今日も黒字の理由』	… P3
	『問題な日本語』『ガンピーさんのふなあそび』	… P3
	図書館からのお知らせ	… P4



文明の利器

中谷 栄一

「時代遅れのアナログ人間やなあ」。娘 解散駅まで自転車で行き、そこから必ず徒の私に対する口癖。腕時計は身に付けな歩で集合駅へ向かい、電車でやってくる皆い、携帯電話は勿論のこと、パソコンも使と合流し、案内者の説明で付近を散策。帰わない。テレビも、見るのはNHK大河ドラマを週一時間だけ。自室で机に向かう時も、真冬でも火の気なし。そして、交通手段は殆ど自転車に頼る。私のささやかな楽しみの一つが、歴史の舞台となった地を訪ね歩き、その地に自分の足跡を印し、そこに至る道ないしは地形を把握することである。若いころ乗り回した単車、そして憧れのサイクリング車などは速すぎて目に映る物も見落しがち、徒歩が最適だが忙しい身には贅沢極まりない。いわゆるママチャリの速さが丁度よい。山中溪より岸和田以遠(岸和田城まで二十キロは一時間二十分)は内装三段でパンク修理道具を前籠に取り付けたものを、それより近距離はギヤーなし、修理道具なしのものを使う。家族から譲り受けた自転車が五台もあるから。

参考までに、新家駅まで七キロを三十分、熊取駅まで十三キロを五十五分の目安。北方面へ長距離の場合、小休止は堺市か大阪市内で二回目を取る。なお、圧倒的に多い自転車利用の形は、京都府や奈良県などの日帰りの史跡めぐり団体での参加である。深夜に出発し、散策地の最寄り

以前とはちがって、時間に縛られることなく、ぶらりと自転車で遠乗りするのが理想的だが、現実には、なかなかそれができない。また、私には、博物館や観光案内所へ入ると手当たり次第に図録類を買い漁り、パンフレットを集める習性があるので、それらが荷物にならないように、長旅もせいぜい二泊三日が限度、それ以上の長い旅は車だけか、車に自転車を積んでのドライブ旅行となる。

京都、奈良、神戸まで日帰り旅行できるとは、徒歩に頼るしか手段のない江戸時代には想像もできなかったことであろう。自転車こそ、まさに文明の利器。車や電車のスピードに比べて、何倍も時間を失い、もつたいたい限りだが、その分、足腰が鍛えられ、健康で長生きできれば、損した時間を十二分に取り戻せるというものである。苦勞も多くなるが、それに比例して人生のドラマ・ロマンが倍加する。

南海箱作駅より、府道を西に約三百m進むと茶屋川が流れ、昔の風情を残している。

川沿いには軽自動車を通れるくらいの道があり、宗福寺の傍に一本の樹がある。幹周り四m、高さ約二十五m、樹齢三百年はあるだろうか。自動車はこの樹を避けるように通っている。エノキ(榎)かなと思ひ、ムク(椋)の樹だと判りました。

辞書によると、関東以西でごく普通に見られるアサ科の落葉高木で、ムクドリがこの実を好んで食べることから、別名ムクエノキとも言う。木材は、さほど耐久性がないので、工具の柄や三味線など樂器材に使われているそうです。

寺田 雄揮

自由空間



私たち社会の場において、様々な体験や交渉、提案の機会があり、その機会を情報社会の中で情報を通じて培っている。私もその一人である。私は大阪府下、又和歌山県の過疎地への取材に足を運んでいる。過疎地の温かな生活と密着して人々との繋がりを大切に、地域の収穫や祭りの行事、学校行事などを取材し、メディアへつなげる

活動をしている。地域とつながるには、まず話題が豊富な事が人を楽しませ心をほぐす働きをする。雑談のうちには意外興味を持つ事がある。それは語り手と聞き手にそれ相応の余地があるからである。下地があれば雑談の中にも味がにじみ出るし、味がくみ取れる。そういう下地は普段の素養によって培われる。

そして聞き手の中に得がたい着想がわいてくる事がある。人の言葉や聞き、心を開いて謙虚に取得する事に勝る知恵はないと思う。そして自らも体験し、知識、知恵を持ち得る事です。目を楽しませつつ、心を豊かに咲き乱れる花園のように！

林 義雄

《ご存知ですか》

松葉ジュースの効能

皆さんは健康青汁をご存知でしょうか？テレビコマーシャルで「うーん、マズイ。もう一杯！」というセリフに聞き覚えのある人もおありでしょう。今回、私が紹介したいのは青汁とは別の飲み物「松葉ジュース」です。私の父が試しに飲んでみたところアラ不思議、髪の毛が徐々に黒くなるではありませんか？

作り方は簡単、二握りの松葉を2cm位に切り、食品用洗剤で良く洗い、200cc位の水と

一緒に約1分間ミキサーにかけて、あと茶こしで漉す。出来上がり後2時間以内に飲んでください。味は少々青臭いが、レモン果汁、又は蜂蜜少々を加えても良いです。

文献(『松葉ジュース』上原美鈴著)によると、松葉には、葉緑素、ミネラル、タンパク質、ビタミンA、C、K、リン、鉄などが含まれ、ガン、認知症、脳梗塞、心臓病、糖尿病等々、様々な病に効用があると言われています。

高橋 勇

ビジネス書か?と面白いつつ、タイトルに惹かれ、読んでみると、若い女性の創意あふれる食堂経営の実話で、著者に会ってメールを送りたくなった。理系の大学を卒業後、システムエンジニアとして六年間働いた後に飲食店修行をした経歴にも驚かされる。

著者の小林さんが開いた「未來食堂」は、客席十二席の小さな食堂。メニューは日替わり一種だけ。コンセプトは「誰もが受け入れられ、誰もがふさわしい場所」。著者は、お金のない人をどのように受け入れられるかを考え、「まかないさん」の制度を作る。タイトルの「ただめし」とは、「まかないさん」として店の手伝いを五十分すれば、一食をただで食べさせてもらえるシステムだ。「ただめし券」は、「まかないさん」が自分で食べる代わりに、お店の壁に貼っていきもので、来店した人は誰かに会ってみたい。

加藤 靖子

私のあそび



橋本 一郎

若い人たちのメールは、「こんにちは」「こんばんわ」で始まります。お節介な私は、「ちがうよ、助詞の、わは、はと書くんだよ」と、その都度、注意してききました。しかし一向に直りません。「何でこんなになってしまったのだろう?」と、思っていました。その謎が解けました。孫が書いた日記に「なの」と

という接続詞らしい言葉が出てきました。「えっ、何だこりゃ?」とおもいましたが、やはり『問題な日本語』だと思いきす。そう言えば、この本の『問題な日本語』についても、書いた人は、「表題とした問題な、も味な使い方だと思っが、問題のある表現である。」と言っています。「私的にはOKです。」

『ガンピーさんのふなあそび』

ジョン・バーニンガム / 作

《児童書》

光吉夏弥訳 ほるぷ出版 E

イギリスの田舎の風景がやわらかなタッチで描かれているのですが、日本語訳の「ふなあそび」ということばが、この絵本の雰囲気をよく表していて、絵本全体にさわやかな風とゆったりとした川が流れているようです。

バーニンガムの絵は、絵だけでもしっかりストーリーを語っているので、まだ字が読めない小さい子でも、ページをめくるたびにでてくるユニークな動物たちを見ながら、このお話を楽しむことができます。それは原書で

読んでも同様で、動物たちが騒いでいるシーンなどは、たとえ英語がわからなくても、英語の持つ音とリズムでバーニンガムの描くいきいきとした動物たちの動きを感じさせてくれます。原書は『Mr Gumpy's Outing』のタイトルで市立図書館の洋書絵本コーナーにあります。光吉夏弥氏の邦訳もすばらしいので、英語と日本語の良さを味わいながら、のんびりと『ガンピーさんのふなあそび』を楽しみたいところです。

井上 和代

図書館からのお知らせ

図書館フレンズ活動報告

★2016年度は図書館ボランティアの組織化により、全体の総称を“図書館サポーター・ブックファン”から“図書館フレンズ”としました。今までは別個に活動していた、「ブックスタートスタッフ」、「おはなしでてこい」、「はじまりはじまり♪紙芝居」も加えた新生「図書館フレンズ」が誕生いたしました。今までの7部会に3部会が加わり、図書館フレンズは10部会で今後活動していきます。

★2016年度の活動延べ人数の集計は、下記のとおりです。

配架部会に1557名、書庫入れ作業部会に343名、修理・清拭・装備部会に522名、館内装飾部会に27名、リサイクル部会に128名、広報部会に69名、生け花等環境整備に199名、ブックスタート部会に48名、おはなしでてこい部会に24名、はじまりはじまり♪かみしばい部会に61名が参加し、**年間の延べ参加人数が2978名**にものぼりました。登録者は92名ですので、1人平均32日活動したことになります。

また、修理冊数は3031冊、清拭冊数が2880冊とたくさんの本が蘇り、603冊の本が装備されて図書館の資料に加えられました。

2017年秋から本のリサイクルの方法が変わります！

図書館主催で行っている『本のリサイクル』は6月で終わりました。

次回からは、市民協働事業として「本のリサイクル運営委員会」が実施いたします。開催は週1回（土曜日）の予定です。皆様のご利用お待ちしております。

市民協働事業として「本のリサイクル運営委員会」が事業を行う目的は、リサイクル本等を安価で販売し、その収益で本を購入して図書館や公共施設に寄附するなど社会還元することです。ご協力をお願いします。

開催場所：サラダホール内

名 称：リサイクルブック「つながり」

★常設の棚に本を並べますので、

見やすく選びやすくなります。

オープン日程等、詳細は広報はんなり9月号をご覧ください。

お問い合わせ：本のリサイクル運営委員会事務局（図書館内 072-471-9000）

